

8

中国四国ブロックのHIV医療体制整備

ーHIV感染症の医療体制の整備に関する研究（中国四国ブロック）ー

研究分担者 藤井 輝久

広島大学病院輸血部 准教授

研究要旨

本研究ではHIV陽性者の非専門施設への受け入れを構築するための資料の開発や研修の開催を行っていたが、新型コロナウイルス蔓延防止の観点より、研修の一部はオンライン会議ソフトを用いた。会場費の節減、研修者は現地集合しなくてもよいメリットはあったものの、事例検討など患者のプライバシーに関する事項の討議に特別な配慮が必要であることが分かった。また、出前研修も行いつらい状況にもなり、年間3件程度の依頼に留まった。福祉施設、障害者施設、介護施設におけるHIV陽性者の受け入れ困難例が頻発している現状を踏まえると、従来とは別の方法で働き掛けをする必要性を感じた。あらたな試みとして、血友病薬害被害者を対象に「なんでも相談 とも」を開始した。薬害原告当事者との協働により、地域の被害者宅へ訪問し、個々のニーズを拾い上げることができるようになった。

A. 研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備を行うことである。具体的には、①エイズ拠点病院・中核拠点病院（以下、拠点病院）のエイズ診療の質の向上とその維持を確保、②非専門施設（病院、医院）や介護・福祉施設などにおける疾患に対する偏見からもたらす差別的対応の解消、である。具体的な方策として、拠点病院所属構成員に対しては、職種別研修会の開催を行うこと、教育資料の配布を行って、ケア提供者の人材育成と資質の向上を図ることである。また、非専門施設や介護・福祉施設構成員に対しては、より平易な内容の教育活動である。また以前から薬害被害者より要望のある「血友病」のケアにも重点をおき、当該患者の高齢化および余病に対応する研究も行う。具体的にはHIVだけでなく、血友病にも対応できる医療機関・施設を増やし、スムーズな「病診連携」を実現するための研修内容や教育資料の改良を行うことも目的の一つである。

B. 研究方法

研修会に関しては、その参加者数と参加者アンケートなどを集計し、その内容や評価を集計した。そ

の際に、個人情報と思われる項目を除いた。またこの研究においては、自施設の倫理委員会の承認を得ており、これらをもって倫理面への配慮とした。教育資料は、日常診療における患者、特に薬害被害者の要望あるいはブロック内の医療・介護従事者のニーズ等を勘案し作成した。また新たな情報が得られた場合には、資料に反映させるために、アップデートを行った。

C. 研究結果

1. ブロックでの教育研修

1-1. 医師を対象とした研修会

開催日：2022年8月29～30日（1回目）。2022年9月26～27日（2回目）。場所：広島大学病院（広島市）。研修参加医師数：計5人。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大のため、準備段階の時点では昨年と同様オンラインによる1日のみの研修を考慮していた。しかしながら、国・政府からの緊急事態宣言や、県からのまん延防止等重点措置は発令されなかったため、2回とも現地参集にて行った（表1、図1）。内容で最も評価が高かったのは、「PWH/Aの体験談」であった。一方で、講義「HIV感染症（診療の現状と最近の話

表1 医師を対象とした研修会プログラム

午前	1日目(月)	午前	2日目(火)
		9:00	演習: HIV検査の勧め方・告知の仕方 公認心理師: 喜花伸子、杉本悠貴恵 医師: 山崎尚也、井上暢子
		11:30	外来見学 担当(医師): 齊藤誠司、藤井輝久
		12:30	
午後		午後	
12:45	受付開始		
13:15	集合・オリエンテーション 担当(医師): 山崎尚也		
13:30	講義: HIV感染症(診療の現状と最近の話題) 医師: 藤井輝久	13:30	演習: 症例検討 担当(医師): 山崎尚也、藤井輝久
14:45	講義: 薬剤師の役割 薬剤師: 石井聡一郎	15:00	講義: 血友病の診療(薬害の歴史を踏まえて) 医師: 藤井輝久
15:45	講義: 看護師の役割 看護師: 後藤志保	15:30	演習: ポストテスト 担当(医師): 山崎尚也、藤井輝久
16:15	講義: ワーカーの役割 MSW: 村上英子	16:15	外来ケースカンファレンス
17:00	講義: PWH/Aの体験談 担当: 当事者	17:00	まとめ・終了
17:30	1日目のまとめ		



(参加者のプライバシー保護の観点よりぼかしを入れています)

図1 (写真) 医師向け研修会の様子

題)」については、難しいと答えた参加者が多かった。なお、各職種の講義資料は、「広島大学病院エイズ診療医のための研修会・資料集」としてまとめて、全国の拠点病院へ配布した(図2)。

1-2. 歯科医師を対象とした研修会

1) 拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会

開催日: 2022年10月23日。場所: 岡山国際交流センター(岡山市)。開催形態は参集とオンラインのハイブリッド形式であった。この研修会は、新型コロナウイルスまん延禍(以下、コロナ禍)においても、参集で行うことができている唯一の研修会である。また例年通り、今年も午後の会議に併せる形で当日午前中に行った。コロナ禍にも関わらず現地研修参加者は歯科医師・歯科衛生士併せて計31人であり、3人のオンライン参加者を含めると34人となり、昨年度を上回った。また初めて9県全ての



図2 エイズ診療医のための研修会プログラム資料集

歯科医師会関係者の参加があった。はじめに東京のしらかば診療所の井戸田一朗院長より「HIV/性感染症の現状及び口腔内病変」の講演があった。次に大阪HIV薬害訴訟原告団の橋本則久氏より「歯科への期待のメッセージ」が述べられた。会議の内容は、各県の「HIV 歯科診療体制」、特に歯科医師会が主導する歯科診療ネットワーク構築についての現状報告及び今後に関する議論であった。基調講演として、東京都荏原歯科医師会会長で東京HIVデンタルネットワーク代表の鈴木治仁院長より、東京での取り組みが報告された。なお、昨年までHIV 歯科診療ネットワーク構築に消極的な立場を取ってきた岡山県歯科医師会より、1年以内の構築を目指すことが報告された。

2) 一般開業歯科医向け研修会

開催日：2022年12月4日。場所：安芸区民文化センター（広島市）。研修参加者数14人。開催形態は参集。講演者は、兵庫医科大学呼吸器・血液内科の澤田暁宏助教及び本院輸血部の山崎尚也病院助教、同じく口腔検査センター新谷智章助教であった。研修会終了後、参加者に対してHIV感染症に関するアンケートを実施したところ、全員がHIV陽性者の歯科診療をしたことがない、と回答した。また内容については、“非常によい” “よい”との回答が多かった（図3）。しかし、研修終了後でも“HIV感染症治療の担当医師からの紹介状持参でのHIV陽性者歯科治療の可否”に対する設問では、「他院を紹介する」といった回答が見られた。

1-3. 看護師を対象とした研修会

1) 基礎コース（2回）

開催日：初回2022年6月30日～7月1日（参集形式、場所：広島大学病院）、2回目7月28～29日（オンライン形式）。参加人数は2回の合計で22人。初回は集合形態で行ったものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を10人とした。2回目はオンラインで行ったため、参加者制限は設けず12人の参加であった（表2）。

参加者の勤務施設、症例経験数などは（図4）のとおりであった。県別参加者は愛媛の1人を除いて、広島県内であった。役職別では、昨年と違い主任または副師長が減り、代わりに一般スタッフが増えていた。またHIV感染/エイズ患者の看護未経験者は45%と、ほぼ半分であった。多かった。受講動機は、「基礎知識の習得（自己研鑽）」が参加者全

員で一番多く、ついで「今後患者が来た際に対応できるようにする」であった。

研修後、参加者全員に内容についてアンケート調査を実施した（図5）。講義内容について、理解度と満足度を尋ねたところ、共に看護師の「HIV陽性者の看護各論」がもっとも高かった。

2) アドバンストコース（経験者向け）

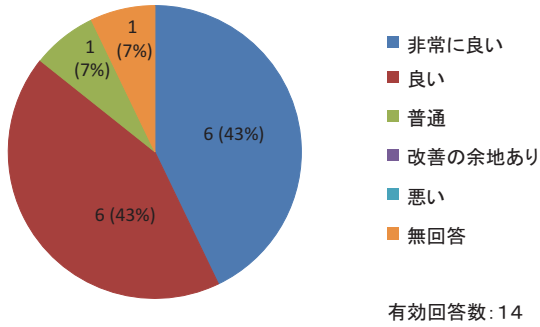
開催日：2023年1月28日（オンライン形式）。参加者11人。新型コロナウイルスまん延防止の観点より、2年間行わなかったが、3年振りに開催となった（表3）。内容は講演と3つのグループに分かれての事例検討であった。講演者は、北海道大学病院の看護師、渡部恵子氏と特定非営利活動法人パープルハンズの永易至文氏であった。グループに分かれての事例検討では以下の方法により事例のプライバシー保護を行った。①Zoomのブレイクアウトルームにて検討を行う②事例の概要はオンライン上に掲示せず、事前に資料として参加者へ郵送。検討後に返送。

1-4. 中国四国ブロック内の拠点病院に勤務またはその院外薬局の薬剤師を対象とした研修会

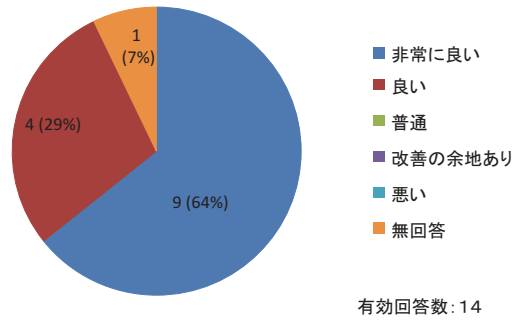
開催日：2022年12月3日。場所：TKP広島本通駅前カンファレンスセンター（広島市）から配信。開催形態：Zoomを使用したオンライン。参加者は52人であり、中四国ブロックの拠点病院以外にも、院外薬局薬剤師4人、広島県内の拠点病院以外の病院薬剤師9人の参加もあった。

北海道大学病院の遠藤知之講師より、「長期療養時代のHIV診療に求められるもの」の講演があった。疫学や現在のガイドラインで推奨されている治療薬だけでなく、今後登場予定の薬剤、長期療養時代に必要な診療体制等について分かりやすく伝えられた。広島大学病院藤井健司薬剤師より「長期療養時代の服薬援助～トレーシングレポートとお薬手帳～」について講演があった。薬局から届いたトレーシングレポートから患者支援につながった事例や、お薬手帳の活用状況について報告された。続いて、緑風会薬局の小川和彦薬剤師から「長期療養における薬薬連携～保険薬局の活用方法～」について講演があった。患者の高齢化に伴う課題に対して、薬局では訪問薬剤管理指導が行えること、実際の薬剤管理支援を行った事例について紹介された。最後に、千葉大学医学部附属病院の築地茉莉子薬剤師より「長期療養を見据えた抗HIV薬薬連携～千葉県で

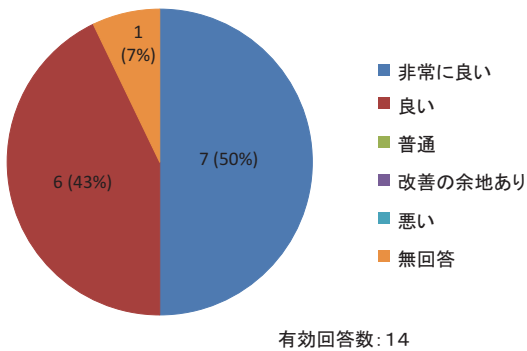
講習会全体の印象



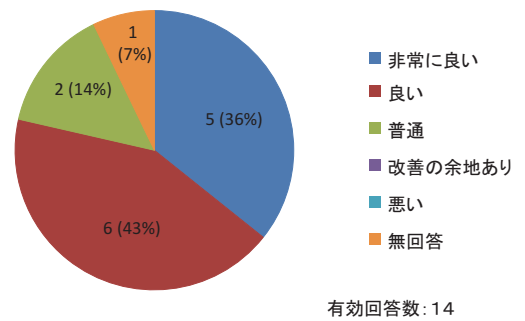
「HIV感染の基礎知識～最近の話題」の印象



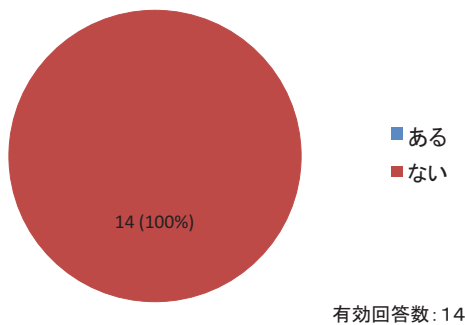
講演「血液曝露後の対応B型・C型肝炎について」の印象



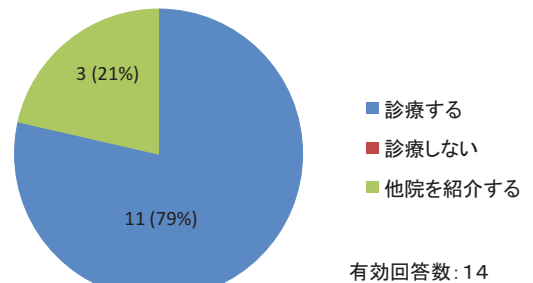
講演「広島大学病院歯科で実施したHIV感染症に関する疫学研究について」の印象



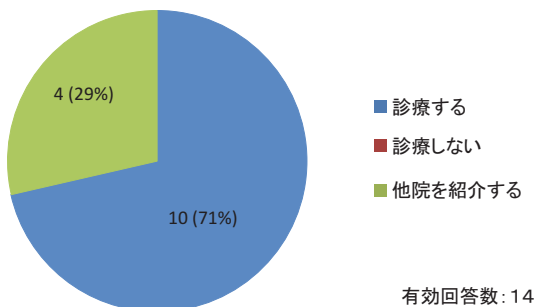
過去3年間のHIV陽性者の歯科治療経験



HIV感染症治療の担当医師からの紹介状持参でのHIV陽性者歯科治療の可否



紹介状なしでのHIV陽性者歯科治療の可否



B型・C型肝炎ウイルス陽性者歯科治療の可否

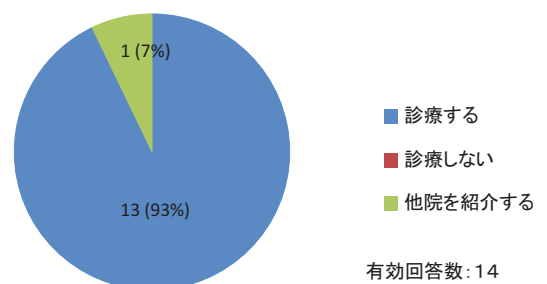


図3 一般開業歯科医向け研修会アンケート結果

表2 看護師を対象とした研修会プログラム

1日目		2日目	
時間	内容		
10:30	受付開始	9:00～ 9:30	レクチャー「HIV疾患と歯科」 講師:診療支援部 歯科衛生士
10:50～11:10	開会挨拶/スタッフ紹介/参加者紹介/ オリエンテーション	9:30～10:10	レクチャー「HIV陽性者の心理的支援」 講師:エイズ医療対策室 公認心理師
11:10～12:00	レクチャー「HIV/AIDSの基礎知識」 講師:エイズ医療対策室 医師	10:10～10:40	レクチャー「社会資源の活用」 講師:エイズ医療対策室 MSW
12:00～12:10	<休憩>	10:40～10:55	<休憩>
12:10～12:50	レクチャー「抗HIV薬の服薬援助」 講師:薬剤部 薬剤師	10:55～11:45	レクチャー「性の多様性」 講師:NPO法人アカー
12:50～13:50	<昼食・休憩>	11:45～12:45	<昼食・休憩>
13:50～14:40	レクチャー「HIV陽性者の看護総論」 講師:看護部 看護師	12:45～13:35	レクチャー「HIV陽性者の看護 各論」 講師:高知大学医学部附属病院 看護師
14:40～14:50	<休憩>	13:35～13:45	<休憩>
14:50～15:40	「薬害エイズの歴史・血友病と共に生きる」(担当:薬害被害者)	13:45～14:45	ロールプレイ(担当:エイズ医療対策室 公認心理師)
15:40～15:50	<休憩>	14:45～15:10	振り返り・参加者感想発表
15:50～16:30	「HIV陽性者との交流・座談会」(担当: NPO法人、ジャンププラス)	15:10～15:15	閉会挨拶、記念撮影
16:30～16:40	振り返り(1日目)		

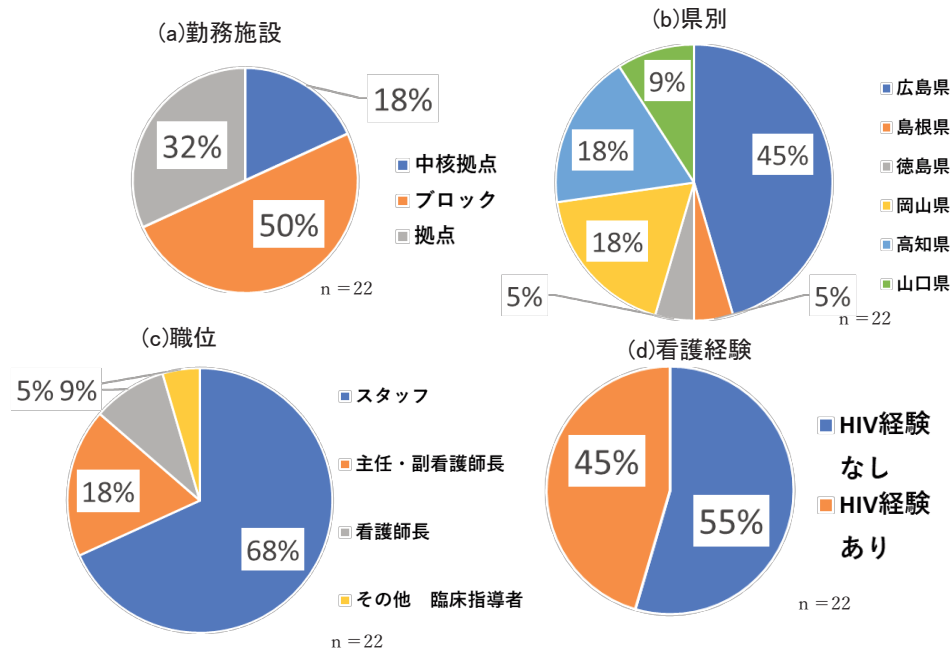
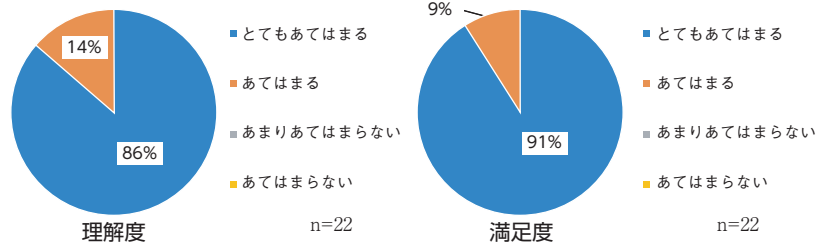
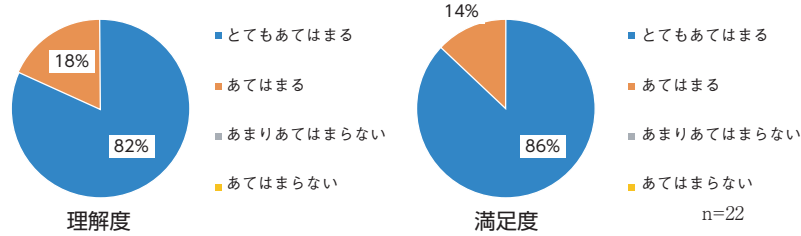


図4 看護師のためのエイズ診療従事者研修会参加者の背景

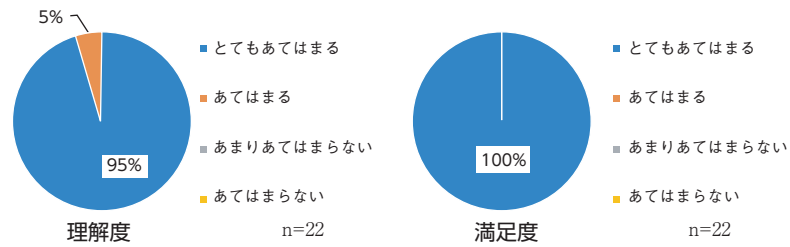
医師「HIV/AIDSの基礎知識」



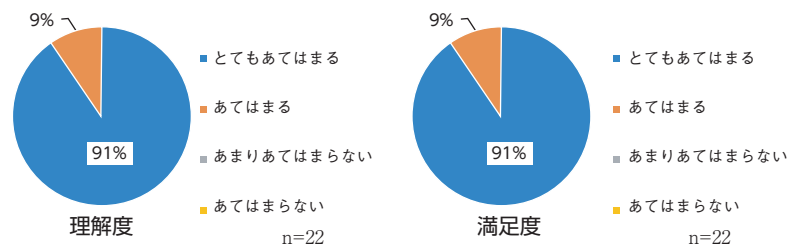
薬剤師「抗HIV薬の服薬援助について」



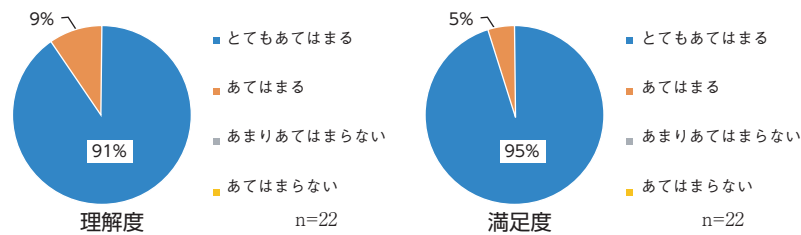
看護師「HIV陽性者の看護総論」



歯科衛生士「HIV疾患と歯科」



公認心理師「HIV陽性者の心理的支援」



医療ソーシャルワーカー「社会資源の活用」

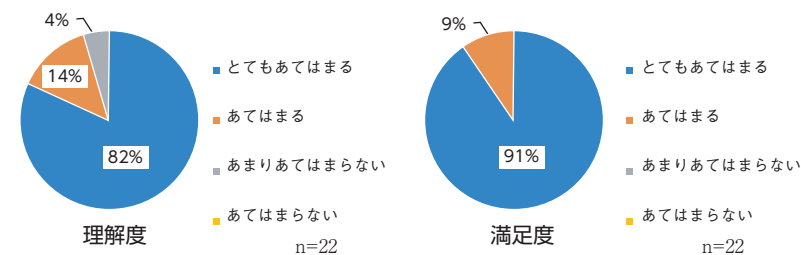
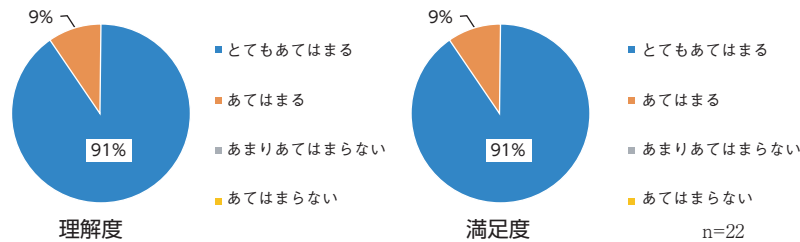


図5-1 看護師のためのエイズ診療従事者研修会アンケート結果（“とてもあてはまる”が最高）

NPO法人アカー「性の多様性」



看護師「HIV陽性者の看護 各論」

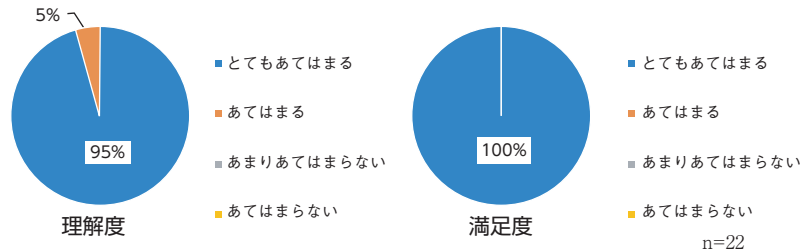


図5-2 看護師のためのエイズ診療従事者研修会アンケート結果（“とてもあてはまる”が最高）

表3 看護師を対象とした研修会
アドバンストコース・プログラム

時間	内容
10:00～10:10	開会挨拶/オリエンテーション
10:10～11:00	講義「長期療養支援における看護師に役割」 講師：北海道大学病院 渡部恵子 看護師
11:00～11:10	<休憩>
11:10～12:10	講義：HIV陽性者のライフプランニング 講師：特定NPO法人パープルハンズ 永易至文 氏
12:10～13:10	<昼食・休憩>
13:10～13:20	事例検討オリエンテーション
13:20～14:20	事例検討①
14:20～14:30	<休憩>
14:30～15:30	事例検討②
15:30～15:35	参加者からの感想/閉会

の取り組み～」の講演があった。千葉県における自立支援医療指定薬局の抗HIV薬処方応需状況に関する調査について紹介があり、抗HIV薬の服薬指導ではプライバシーへの配慮など特有の課題があり、実績のある薬局でも困っていることが多いことが報告された。また、薬局間での在庫状況の共有システム構築についても紹介された。

1-5. エイズ拠点病院に勤務するメディカルソーシャルワーカー（MSW）を対象とした研修会

開催日：2022年8月27日。開催形態：Zoomを使用したオンライン。会議参加者：中国四国ブロックエイズ拠点病院21施設、25人。HIV陽性者担当ソーシャルワーカーが知るべき血友病薬害被害者支援と、セクシュアリティをテーマとした。

まずブロック内の中核拠点病院のMSWにHIV陽性者に対するソーシャルワークの実践として、日頃の支援内容を発表する場を設けて共有した。参加者の中には、支援経験がないために不安を抱えながら業務に取り組んでいる者もあり、経験のあるMSWによる発表は、支援の均てん化を図るために有効的であった。他に、「HIV感染症の基礎知識・最新情報」、大阪原告団理事による「薬害エイズの教訓から」、認定NPO法人ぶれいす東京の加藤力也氏による「HIV陽性者の生活・セクシュアリティとピアサポート」の3つの講義を提供した。

研修後のアンケートでは、「県外のMSWの実践状況を聞いて、HIV陽性者支援の中で、MSWが悩んだりしていることについての内容を共有することが重要であると理解できた。」「外国人の場合や

転居時など、どのような点に配慮すべきか、実際どう動いているのかが聞くことができるとも勉強になった。」、「プライバシー、告知だけでなく、セクシュアリティの場面での配慮を注意していきたい。」、「セクシュアリティについては思い込みや間違った理解をしていないかなど迷うことが多く、直接話を聞くことができよかったです。」、「原告団の理事・患者側の立場の話聞くことが少ない現状の中、その方のライフストーリーを語っていただくことも勇気があることであり、歴史の中での生活における苦勞を乗り越えて、今を生きていることを理解できた。MSWとして貴重な経験ができた。」などの感想がみられた。

最終的に、資料集として冊子にまとめ、参加者並びに拠点病院MSW宛てに配布とした。

1-6. 出前研修

昨年度、長期療養支援の体制構築に向け、透析を行う施設に向けて研修案内を送付した。その後、以前受け入れ相談があった際に知識不足、感染対策等を理由に準備が整わず受入れが叶わなかった透析治療施設から研修の申込みがあり、コロナ禍に対応してオンラインでの研修を提供できる体制を整えて、オンラインで実施した。

また毎年開催している県のエイズ対策協議会での広報活動が実り、県内の老人福祉施設連盟に加盟している施設に向けたオンライン出前研修を実施した。実施後は、同連盟のホームページにて研修動画を公開し、オンデマンドで広く周知できる方法を実践した。実地で行った研修では、特別養護老人ホームから今後利用者に対象者がいる可能性も含めて、正しい知識を学びたいとの研修申込みがあったので、医師、看護師、ソーシャルワーカーが出向いて講義を行った。2022年度は計3件であった。

1-7. その他

「その他」とは、実施主体（主催）が本院ではないが、分担研究者やその研究協力者が研修の立案に大きく関与し、かつスタッフとして協力した研修会である。

1) 心理職対象 HIV カウンセリング研修会

（初級者向け）

開催日：2022年7月30～31日。開催形態：オンライン。今年度は、中国四国ブロック内のHIV治療施

設に勤務する心理職及び福祉職およびHIV派遣カウンセラー、HIV領域に関心のある29人が参加した。本研修会は、日本学術振興会科学研究費補助金事業による研究「身体領域における公認心理師の本格活用の促進：卒後養成プログラムの開発」により作成された「新任者養成プログラム」を活用し、オンラインで開催した。参加者の多くは、派遣カウンセラーとして登録しているが数年活動していないため、知識のアップデートを目的に参加した者の他、教育分野や精神科医療に勤務しているが、正しい知識の習得を目的に参加した者もあった。研修会では、HIVの基礎知識や患者の心理、身体疾患領域におけるチーム医療など幅広い内容の講義と演習を行った。事前・事後アンケートを比較すると、HIV基礎知識・HIVカウンセリングに関する知識だけでなく、地域医療やHIV感染者の心理学的理解に関する得点の大幅な上昇がみられた。

2) HIV/AIDS 専門カウンセラー研修会（2回）

開催日：2022年12月10日（初回）。2023年2月25日（2回目、予定）。開催形態：初回はオンライン。2回目は参集（場所：広島アステールプラザ、広島市）。本研修会は、HIV/AIDSのより専門性を高めることを目的に開催しており、初回は中国四国ブロック内のHIV治療施設に勤務する心理職及び福祉職およびHIV派遣カウンセラー、HIV領域に関心のある21人が参加した。HIV感染症の医学的知識と心理社会的問題と支援に関する講義に加え、情報交換を含めてグループディスカッションを行った。「注射剤などの最新知識だけでなく、多くのHIV患者支援を行っているソーシャルワーカーの経験からの話が有意義だった」などの感想があった。

3) HIV 抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会

開催日：2022年6月17日。開催形態：オンライン。今回、中国四国ブロック内においてHIV抗体検査相談に従事する医師、保健師および派遣カウンセラーを対象に開催し32人の参加があった。HIV検査に関する講義と当事者の話の後、架空事例を用いたロールプレイを行った。オンライン上ではあったが、対応の振り返りや受検者の立場を疑似体験する機会となったなどの感想が多かった。

4) 全職種対象の研修会（包括カウンセリングセミナー
：広島県臨床心理士会主催）（図6）

開催日：2022年9月18日。場所：広島市文化交流会館（広島市）。開催形態：参集。中国四国ブロック内の中核拠点病院及び拠点病院のうち、HIV診療を行っている医療機関のスタッフを対象とした研修会である。コロナ禍によりオンライン形式での開催を続けてきたが、今年度は3年ぶりに集合形式で開催した。当初の参加予定者は56人であったが、台風の影響のため、当日の参加者は33人であった。心理・社会的問題を抱えた症例発表及び、職種ごとの少人数グループでのディスカッションを行い、多

職種チームによる患者支援の方向性について検討した。なお、症例発表を準備していた医療機関のスタッフの欠席があり、その症例は検討できなかった。そのため、2023年2月26日に2回目の開催を行うこととした。

2. エイズ関連の教育資料

2-1. 小冊子・パンフレット等

「現在、本研究費で作成・発刊している小冊子・パンフレットは（図7）の通りである。今年度は、内容について変更したものはなく、全て現版の増刷となった。



（参加者のプライバシー保護の観点よりぼかしを入れています）

図6（写真）全職種対象の研修会（包括カウンセリングセミナー）の様子

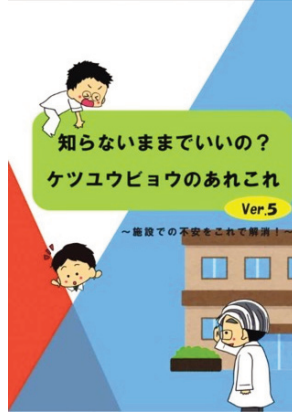
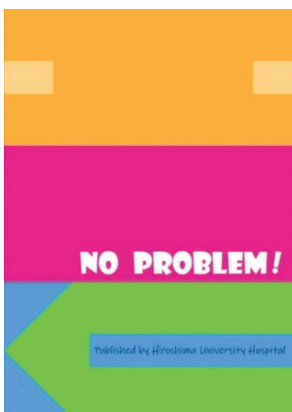
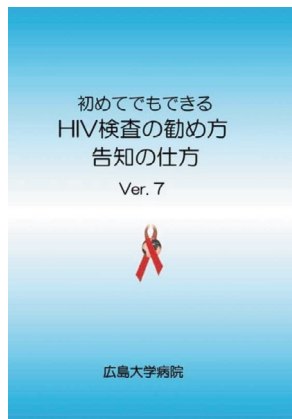


図7 発行・配布している小冊子一覧

3. その他医療体制の構築に関する取り組み

3-1. 中四国エイズセンターホームページ

(<http://www.aids-chushi.or.jp>)による情報発信
本院主催の会議や研修会の様子を掲載した。また前述の小冊子の案内や、中国四国地方で行われるエイズ・HIVに関する研修会・イベントの案内、血友病薬害被害者対象検診外来のお知らせ等を掲載している。また今年度は、デザインを一新し、より閲覧しやすいサイトとしている(2022年1年間の閲覧数151,672回)。

3-2. 患者受診・服薬支援アプリケーション(せるまね)

平成28年からリリースしているセルフマネジメントを目的としたスマートフォン用アプリケーション。連続服用記録に応じた花のアニメーションで、服薬状況を把握できる機能を備える。今年度は抗HIV薬の注射薬剤使用者にも対応できる機能を追加し、今年度中のアップデートを予定している。

3-3. 非職業的曝露後予防内服(nPEP)

2019年4月1日より開始している。今年度もコロナ禍の影響があり、希望者は少ないと思われたが、7人の受診があり、うち6人に抗HIV薬の処方を行った。しかし、メールを含む問い合わせは11件で、3件は英語によるものであった。

3-4. 薬害被害者検診外来

2018年度より「血友病薬害被害者対象検査入院」(以下、検査入院)、2021年度より「血友病薬害被害者検診外来」(以下、検診外来)を行っているが、共にその費用は保険請求せず、全て研究費で工面することとしている。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、検査入院、検診外来共に希望者は少なく、2022年度は検査入院1人、検診外来1人に留まった。内容は、血友病に関連する関節や身体機能に関する項目や腫瘍マーカーなどの血液検査は毎年としたが、それ以外の画像検査の項目については異常がないものは、放射線被曝の影響を考えて回数を減らし、空いた時間に受検者本人が希望する検査項目を入れていくものに変更した。

3-5. 血友病薬害被害者支援「なんでも相談とも」

中国四国地方および近隣県在住の血友病薬害被害者を対象に、MSW、看護師、心理師が相談者となり、生活上の問題や不安を解決に導く目的で今年度より始まった。具体的な相談方法は、電話、オンライン面談(オンラインソフトやスマートフォンを利用)、対象者宅への訪問などである。周知方法は、中四国エイズセンターホームページへの掲載(図8)、拠点病院HIV/血友病診療医宛てに概要の送付、患者支援団体から登録者への概要送付などであ

なんでも相談とも

◆相談事業について
生活やご家族、環境などに変化が出てくることで、新たな悩みが出来たり、不安が大きくなっていませんか？
解決するために何から始めたらいいのかわからない、その糸口を探すためにも、まずは気軽になっただけのお気持ちをお聞かせください。
ご相談方法は、お電話、オンライン対面相談、スタッフによる訪問からお選びいただけます。

近しい方や、ともだちに話そうような気持ちで、気軽にご相談ください。
わたし達は一人おひとりによりよい、ともに解決に向けてお手伝いします。

◆対象者

- 中国四国地方近隣県にお住まいの、血友病薬害被害者さんとご家族等
- 通院医療機関は問いません。

相談手順

- まずは、当方に『なんでも相談ともを希望します』と、お電話をください。
電話:082-257-5351(直通)
月～金曜日、9時～16時(会議等で不在の場合もあります)
土日祝日をご希望の際は、事前にご相談ください。
- ご相談のスタイルを教えてください。
< 電話 or オンライン対面 or 訪問 >
◇アップル社製の端末(iPhone・iPad・Mac)をお持ちの方は、facetimeでのオンライン対面相談も承ります。準備が整うまで、Zoomでの対応になりますが、ご希望の際はお伝えください。但し、オンライン対面相談は、インターネット環境が整備されている方に限定させていただきます。
◇訪問をご希望の際は、面談日時や場所のご相談を承ります。
- 内容に応じて、適した職種(看護師・心理士・ソーシャルワーカー)がお話を伺い、解決方法を一緒に考えます。
ご相談内容により、各種関係機関を紹介することもあります。
- 「なんでも相談とも」スタッフによる、相談の継続をご希望の際は、次回の相談日時を決定します。
定期的な電話・オンライン対面相談も可能です。
また、本院で実施しております【検診外来や検査入院*】のご利用を悩んでおられる際にも、お気軽にご相談ください。
*血友病薬害被害者対象の検診外来・検査入院のご案内

お約束ごと

- ご相談者の個人情報には適切に管理します。
- ご相談内容によっては、通院先スタッフと情報を共有し、適切な支援につなげる場合があります。その際の情報共有については、ご相談者の意向を尊重します。
- 電話・オンライン対面相談は60分以内となります。
- ご相談者からのお電話、オンライン対面相談時の電話代、通信料に関しては、ご相談者のご負担となります。
- 訪問時のスタッフの交通費や相談会場利用費、ご相談者のご自宅から相談場所までの交通費等は、ご相談者のご負担にはなりません。
- 患者支援団体との協働で、相談対応を行う場合もあります。

お問合せ先

広島大学病院エイズ医療対策室
広島県広島市南区高1-2-3
電話:082-257-5351(直通)

2023.1

図8 何でも相談とも

る。また、対象者がPMDAに提出する生活状況報告書にて、すでに支援団体の支援介入がある場合、同団体からの紹介にて個別支援調整を行い、訪問等を実施する。今年度は訪問支援を2件実施予定している。

D. 考察

考察は以下の通り研修会別に述べる。

医師向け研修会：

昨年度は初めてオンラインで研修会を行ったが、研修参加者はHIV感染症診療の初心者であるため、やはり実地で患者の実情を知ることが大切であると思われた。一方、中国・四国地方を対象に参加募集を行った場合、地理的な問題もありオンライン研修会の方が、参加者の利便性が高いので、参加人数が増える可能性もある。しかし、この研修の目的は、“HIV診療を適切に行うことのできる医師の育成”であるため、オンラインという空間を共有しない中で、育成に足る研修ができるか甚だ疑問である。本年度は参集形式に戻したが、インタラクティブはセッションを積み重ねることで、教育効果が挙がるものと考えられる。また導入のための講義としている「HIV感染症（診療の現状と最近の話題）」の内容がやや難解に捉えられており、“研修参加者はHIV感染症診療の初心者”であることを理解した上で、より平易な内容にする必要がある。

歯科医師向け研修会：

コロナ禍の中、2つの研修とも参集で行うことができた。中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議においては、中国・四国全県から歯科医師会関係者の出席があったこと、HIV歯科診療ネットワークに消極的だった岡山県において、構築の動きが出てきたことは、本会議・研修の果たす役割は大きいと考えられた。また一般開業歯科医師向け研修会は、歯科医療従事者のHIV感染症への理解を促すことがHIV診療拒否問題を解決するうえで重要な役割を果たすことが確認できた。

看護師向け研修会：

今年度第1回目は実地開催をすることができたが、第2回目は新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン開催となった。受講後のアンケートでは、基礎知識を学ぶことができた、との回答が多数を占め、研修受講者のニーズに合った研修を行うことができたのではないかと考える。また、自由記載よりこの研修を受け、自施設で活用したいという意見も多く、より実践で活用できる内容であったので

はないかと考える。講義では、HIV陽性患者からの体験と一緒に話をする機会を設けることで、今までHIV陽性患者の看護や面談を行ったことがない研修受講者もよりイメージが付きやすく、今後も引き続き同様の研修の企画を検討していく。

各講義のアンケートから、講義内容について理解できた研修受講者がほとんどであり、満足のいく講義内容であったことが伺えた。

前年の研修は2回ともオンライン形式で、講義中心の内容であったため、参加者が交流する機会はなかった。今回はオンライン形式でもロールプレイを行い、参加者が交流する機会を持つことができた。またHIV陽性者との交流機会として「HIV陽性者との交流」、「薬害エイズの歴史・血友病とともに生きる」を開催した。感想の中に「当事者の思いを知ることができた」「実際の方への気持ちや経験を聞くことのできた」との意見が多く、仮に今後オンライン形式による開催でも、HIV当事者の話を聞く機会を持つことが必要であると考えた。

しかし一方で、ロールプレイはオンライン形式では難しいという意見もあった。相手の感情が読み取りづらい分、コミュニケーションも取りづらいのではないかと考えた。ロールプレイの前に自己紹介を行ったが、所属と氏名を話す程度でありお互いのことが分かりにくい中話すのは困難であったのではないかと考えた。ロールプレイ研修は、「実際にロールプレイすることで、具体的なイメージを持つことができた」など、今後の看護につながるため、今後も研修内容に必要と考えるが、オンライン形式での研修も検討が必要となった場合、アイスブレイクの時間を有効に使い、緊張感をほぐすことも必要となってくるのではないかと考えた。

薬剤師向け研修会：

長期療養時代において、薬剤師がどのような支援を行うことができるか、様々な視点から学ぶことができた。薬局薬剤師や、他ブロックの薬剤師の参加もあり多くの薬剤師にとって学びのある研修会となった。以前は、心理士及びMSWと2日間の集合研修会を開催していた。実際に顔を合わせてディスカッションやロールプレイを行うことや、相互の情報交換を行うためには集合研修は非常に有用な機会となる。今後、感染対策を講じた上での開催を検討していきたい。

心理職向け研修会：

初心者向け研修の、事前・事後アンケートを比較

すると、HIV基礎知識・HIVカウンセリングに関する知識だけでなく、地域医療やHIV感染者の心理学的理解に関する得点の大幅な上昇がみられた。これらの結果から、HIVカウンセリングの基礎を網羅的に学ぶことのできる機会となったと考える。

専門カウンセラー研修会は、今年度で3年連続オンライン開催となった。事例検討など患者のプライバシーに関する議論はオンラインで行うことが難しい面もあった。それを解決する方法として、参加者には事前に資料を郵送し、かつ会終了後には確実に資料を返送する形を取るなど、プライバシーに十分配慮した方法をとった。

今後もオンライン開催を余儀なくされる可能性があるが、他職種の研修内容に組み込まれている“ロールプレイ”については、オンラインで行うことは困難で、かつ事例検討も、同様のプライバシー保護の方策を採り続ける必要がある。この方策で、現在まで対象者のプライバシー漏洩の疑いがある事例は発生していない。しかしながら、思わぬ落とし穴があるので、今後も現行の方法がよいか、さらなるプライバシー保護方法が必要か検討していきたい。

福祉職（MSW）向け研修会：

オンラインにおける事例検討では、前述の心理職向け研修会と同様のプライバシー保護のための方策をとった。

また患者の高齢化に伴い、慢性期の診療にあたる慢性療養病床保有病院、介護施設、在宅へと、その診療の場がシフトしていく。それらを踏まえ、今後の出前研修は、非拠点病院などの非専門病院ではなく、透析施設、リハビリテーション施設、障害者福祉施設などの職員を対象にしていかなければならない。これらの職員のエイズの知識は、90年代前半の有効な治療薬がない時代で止まっている。理由として、高齢職員が多いことが考えられるが、同世代の一般人の方がメディアやネットより情報を入手しており、むしろ理解が進んでいるのではないかとさえ思われる。このような状況の中、一朝一夕にこういった職員の意識と知識を変えていくことはできないが、少なくとも現在我々がケアしている患者の行き場がなくならないよう働き掛けを続けていく必要がある。

その他の取り組みについて：

ホームページの閲覧数は、昨年比べて約10%減少した。その理由として、魅力的な新規コンテンツがなかった、あるいはエイズ・HIV感染症に関する

特別なニュースがなかったことが考えられた。しかし、2023年2月にはホームページを一新し、より親しみのあるデザインになった。そのため、今後の閲覧数は増加するものと期待している。

教育資料として、今年度は特に改訂版は発行しなかった。しかし、近年抗HIV薬の注射剤や血友病の新規治療薬（Non-factor replacement therapy）などの登場があるので、次年度は「血友病まね～はじめと」を始め、改訂を行う必要があると思われた。

コロナ禍により、停滞していたnPEPや「血友病薬害被害者対象検査入院」は、徐々にコロナ前の状況に戻りつつある。さらに、今年度薬害原告当事者と協働で始まった「なんでも相談とも」は、既に成果を上げつつあり、患者宅への訪問も開始している。今後、人数は少ないものの、薬害被害者に対する個別救済の立場から、確実かつ丁寧に行っていききたい。

E. 結論

ブロック内のエイズ拠点病院に対する職種別研修は、内容や対象者を再考しながら常にアップデートしていく必要がある。また研修会開催形態も、その時々事情により柔軟に変えていくべきである。さらに、拠点病院以外の非拠点病院の医療従事者や介護施設の従事者に対しては、HIV感染症が安定している患者の受け入れ拒否がないよう、小冊子を作成して非専門病院・施設に配布し、かつオンラインでの開催形態を含む「出前研修」を頻繁に行うことで理解を促していく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 発表論文

- 1) 井上暢子、山崎尚也、梶原亨子、藤井輝久：抗ウイルス療法開始後に自己免疫性溶血性貧血を発症したHIV感染症の1例。日臨検医誌, 70(3): 200-203, 2022.
- 2) 石井聡一郎、阿部憲介、榎田崇志、大道淳二、近藤 旭、藤井健司、田中まりの、大東敏和、藤井輝久、畝井浩子、矢倉裕輝、松尾裕彰：学校薬剤師におけるHIV感染症/AIDSをはじめとした性感染症予防啓発活動の実態調査, 日本薬剤師会雑誌, 74 (10) : 1123-1128, 2022.
- 3) Naoya Yamasaki, Teruhisa Fujii. Perioperative Management of Hemophilia A With

- Recombinant VIII-SingleChain: A Case Series. J Curr Surg 12(1): 15-20, 2022.
- 4) Tomie Fujii, Teruhisa Fujii, Yukiko Miyakoshi. Mothers' strategies for supporting daughters who are potential haemophilia carriers. 28(2): e91-94, 2022.
 - 5) 藤井宝恵、柗中智恵子、兵頭麻希、折山早苗、藤井輝久：血友病保因者への遺伝カウンセリングの実態. 日本遺伝看護学会誌. 20(2):35-42, 2022.
 - 6) Keiji Nogami, Masashi Taki, Tadashi Matsushita, Tetsuhito Kojima, Toshiaki Oka, Shouichi Ohga, Kiyoshi Kawakami, Michio Sakai, Takashi Suzuki, Satoshi Higasa, Yasuo Horikoshi, Keiko Shinozawa, Shogo Tamura, Koji Yada, Masue Imaizumi, Yoshitoshi Ohtsuka, Fuminori Iwasaki, Masao Kobayashi, Junki Takamatsu, Hideyuki Takedani, Hisaya Nakadate, Yoko Matsuo, Takeshi Matsumoto, Teruhisa Fujii, Katsuyuki Fukutake, Akira Shirahata, Akira Yoshioka, Midori Shima, J-HIS2 study group: Clinical conditions and risk factors for inhibitor-development in patients with haemophilia: A decade-long prospective cohort study in Japan, J-HIS2 (Japan Hemophilia Inhibitor Study 2). 28(5): 745-759, 2022.
- ## 2. 学会発表
- 1) 岡田美穂、新谷智章、岩田倫幸、川越麻衣子、山崎尚也、井上暢子、古玉大祐、武田克浩、中岡美由紀、水野智仁、藤井輝久、加治屋幹人、柴秀樹：HIV感染者の歯周治療効果に及ぼすCD4数の影響について. 第61回広島県歯科医学会・第106回広島大学歯学会例会.2022年11月13日.広島
 - 2) 藤井輝久、山崎尚也、井上暢子、柿本聖樹、齊藤誠司：HIV陽性者におけるSARS-CoV2ワクチン3回目接種のブースター効果. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 3) 井上暢子、重信英子、後藤志保、山崎尚也、藤井輝久：健康保険・公的医療費助成制度の選択に苦慮した外国人2症例について. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 4) 喜花伸子、杉本悠貴恵、大成杏子、佐々木美希、藤井輝久：血友病被害被害者の生活に関する聞き取り調査. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 5) 杉本悠貴恵、喜花伸子、栗栖 茂、藤井輝久：コロナ禍におけるHIV抗体検査相談研修会（オンライン研修）の効果について. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 6) 重信英子、武部栄子、喜花伸子、獅子田由美、畦池綾子、大東敏和、齊藤誠司、高田 昇、井上暢子、山崎尚也、樗木 錬、藤井輝久：急性リンパ性白血病を発症した、家族関係が希薄なHIV陽性者の自己決定を尊重した心理社会的相談支援. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 7) 大東敏和、田中まりの、上代大地、藤井健司、石井聡一郎、藤井輝久、松尾裕彰：糖尿病を合併するHIV感染症患者の経時的な治療状況に関する調査. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 8) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 互：2021年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
 - 9) 新谷智章、岡田美穂、岩田倫幸、川越麻衣子、山崎尚也、井上暢子、藤井輝久、柴 秀樹：HIV感染者の歯周治療効果に及ぼすCD4数の影響について. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会.2022年11月18日～20日. 浜松、WEB
- ## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし